編集後記

去る一月十五日に渡辺澄夫先生が奥様の後を追うように逝去されました。この突然の訃報にだれもが耳を疑いました。日々精力的に活動されており、先生を知る人は皆百歳を越えても活躍できると確信していたからです。先生の人生の半分は大分縣地方史研究会の歩みそのものであり、会員や歴史関係者にとっては道を示す巨星が落ち行方を失う思いです。

本号では、この悲しいお知らせを伝えるとともに偶然にも先生と深いかかわりをもつ会員あるいは次の地方史を支える会員の力作が寄せられました。最初の河野泰彦氏は大分大学において先生の教えを受けられた教え子であり、甲斐寨純氏は先生の故郷の玖珠の郷土史を支える会員です。上杉ひろみ氏は先生からすれば孫弟子はともいうべき新しい世代の研究者であり、長野浩典氏は近代史の若手会員のホープです。古代・中世・近世・近代のすべての時代の論文が載せられ、先生の蒔いた地方史の種は確実に芽を出し、さらに成長していることを実感できます。

あらためて先生のご冥福を祈るとともに残された遺産を受け継ぎさらなる飛躍を決意するものです。

（飯沼）